

# 近世瀬戸内海塩田の研究

(史料篇続)

——讃岐国高屋浜の場合——

兒 玉 洋 一

## 史料 (乙)

宝曆貳申年

五 月

備前国児嶋郡赤崎村伝兵衛出入一件

乍恐以書付御訴訟申上候

松平大炊頭領分

備前国児嶋郡赤崎村

訴訟人

伝兵衛

塩前銀滯出入

松平讃岐守様御領分

讃岐国阿野郡坂出村

相手

惣兵衛

一銀壹貫貳百九匁三分

同国同郡北高屋村

- 一 銀壹貫四百八拾六匁六分
- 一 銀壹貫四拾目八分
- 一 銀百三拾五匁九分
- 一 同九百六拾壹匁貳分
- 一 同壹貫百七拾九匁五分
- 一 同壹貫貳百四拾五匁三分
- 一 同七匁八分
- 一 同五百拾貳匁
- 一 同三百拾三匁
- 一 同八百七拾五匁八分
- 一 同四百五拾五匁六分
- 一 同八百四拾貳匁壹分
- 一 同七拾目四分
- 一 同五百八拾四匁貳分
- 一 同三百拾九匁八分
- 一 同四百六拾目五分
- 一 同拾六匁貳分
- 一 同貳貫七百拾貳匁貳分

近世瀬戸内海塩田の研究

才八  
 同人  
 松兵衛  
 久八  
 源次郎  
 善次郎  
 伝吉  
 善七  
 半右衛門  
 半十郎  
 金十郎  
 庄三郎  
 清次郎  
 甚七  
 權四郎  
 八右衛門  
 伝兵衛  
 長九郎

- 一同三百六拾七匁八分
- 一同九拾六匁五分
- 一同五百四拾九匁五分
- 一同貳貫百四拾七匁二分
- 一同八拾四匁
- 一同貳貫九拾八匁五分
- 一同百四拾六匁
- 一同壹貫貳百五拾九匁
- 一同貳百五拾五匁壹分
- 一同貳貫三百八拾九匁
- 一同三百三匁
- 一同貳貫貳百八拾三匁三分
- 一同三百貳拾八匁
- 一同六貫五百七拾四匁
- 一同四百貳拾八匁四分
- 一同七拾六匁四分
- 一同四貫九拾五匁五分
- 一同四百五拾九匁九分
- 一同七百三拾四匁壹分

勘四郎  
惣右衛門  
長五郎  
左次兵衛  
甚兵衛  
善四郎  
淺右衛門  
金兵衛  
與助  
又四郎  
九兵衛  
仁左衛門  
新助  
甚右衛門  
權八  
善六  
吉左衛門  
作助  
小十郎

- 一同百三拾三匁二分
- 一同七百貳拾壹匁貳分
- 一同貳百五拾四匁四分
- 一同貳百六拾貳匁三分
- 一同七百五拾七匁貳分
- 一同貳貫貳百三拾匁九分
- 一同三百三拾六匁五分
- 一同壹貫三百七拾壹匁八分
- 一同貳百九拾七匁七分
- 一同三貫百貳拾七匁三分
- 一同百五拾三匁七分
- 一同三貫四百三拾九匁三分
- 一同貳百三拾壹匁三分
- 一同壹貫四百九拾九匁七分
- 一同六百五匁
- 一同四貫七拾三匁八分
- 一同八拾八匁九分
- 一同貳貫七百七拾目五分
- 一同八百四拾貳匁五分

近世瀬戸内海塩田の研究

伝次郎  
 清九郎  
 宇右衛門  
 清左衛門  
 吉兵衛  
 伊三郎  
 与吉郎  
 左平次  
 次右衛門  
 長作  
 徳右衛門  
 新六  
 山三郎  
 清七  
 伝七  
 金三郎  
 平八  
 銀右衛門  
 丈助

一 銀壹貫八拾目

一 同壹貫貳百四拾貳匁貳分

一 同百貳拾貳匁七分

一 同壹貫貳百九拾目四分

一 同壹貫百八匁壹分

一 同百拾五匁壹分

一 同壹貫三百四拾六匁五分

一 同貳貫七百拾七匁

一 同百五拾四匁貳分

一 同九貫拾貳匁四分

一 同百八拾六匁

一 同貳貫五百八拾六匁八分

一 同百七拾八匁八分

一 同壹貫六百貳拾六匁貳分

一 同壹貫六拾九匁六分

一 同貳百六拾九匁三分

一 同壹貫六百八拾八匁四分

一 同貳貫百三拾三匁八分

一 同六百八拾六匁四分

塩政所問屋平次郎子

兵次郎

纒右衛門

長兵衛

三十郎

市助

利八

六右衛門

文七

六左衛門

岩右衛門

利右衛門

伝三郎

喜右衛門

伊左衛門

伝右衛門

善九郎

常右衛門

伝十郎

貞右衛門

一 銀九百七拾貳匁五分

一同四百拾九匁八分

一同六百八拾八匁九分

一同三百九拾壹匁三分

一同壹貫七百貳拾五匁八分

一同六百六拾四匁壹分

一同四百七匁八分

合銀九拾六匁百七拾九匁七分

惣七郎

藤次郎

善三郎

武兵衛

權右衛門

忠左衛門

定八

人数 八拾貳人  
村数 貳ヶ村

赤崎村伝兵衛申上候右之もの共ニ塩前銀貸付置候処書面之銀子相滞候付度々催促仕候得共相濟不申難儀仕候付無  
是非御訴訟申上候御慈悲を以相手不残被 召出滞銀相濟候様被為 仰付被下置候者難有奉存候以上

松平大炊頭領分

備前国見島郡赤崎村

訴訟人 伝兵衛

判

寛延四未十月

御奉行所様

註 寛延四年（宝曆元年）十一月廿七日改元

右訴状書御評定所御裏左之通

如斯訴状差上候間致返答書来申（寛延二年）三月四日評定所（寛延二年）罷出可対決若於不参者可為曲事者也

永十月二十三

近世瀬戸内海塩田の研究



近世瀬戸内海塩田の研究

此之通入拾貳人名不殘訴状裏奥註烈

六七

傳	小	吉	善	權	新	仁	九	又	與	金	淺	善	世	左	長	勸	長	傳	八	權	世	清	庄	金	半
次	右			右	左	兵	四	兵	兵	右	四	兵	次	五	右	四	九	兵	右	四	次	三	十	十	
郎	郎	門	六	八	門	助	門	衛	郎	助	衛	門	郎	衛	郎	郎	門	郎	衛	門	郎	七	郎	郎	郎



## 乍恐以返答書奉申上候

讃州高屋村者共此度赤崎村伝兵衛方々相懸り候銀子之儀五拾ヶ年以前宝永之頃之殘銀ニ御座候所宝永四亥ノ十月四日大地震之節塩浜不残ゆり崩シ家業株を失ひ右殘銀不払ニ相成候由祖父親々共々申伝ニ御座候去々年伝兵衛方々書出シ遣候帳面と此度之銀高と相違ニ御座候尤塩壳銀の利銀可相懸様無御座候所古々儀故私共不存儀如何相心得候哉凡四拾三四年以来殘銀之元の利銀をかけ疊上ケ夥敷銀高ニ仕相掛り候段迷惑仕候右地震ニ而塩釜壺失ひ其上伝兵衛の壳置候塩壳津浪ニ而失ひ候所銀子不請取以前故私損銀ニ相成候右損銀相重り殊渡世之株ニ相懸候間其身其儘ニ相成段々身上相潰奉公ニ罷出候元來輕キ其日渡り之もの共の右損銀ニ付當時殘居候者共茂袖乞同前ニ相成殊ニ年久敷儀故借り人之内死絶候ものも御座候所伝兵衛乍存死失候人迄御裏御判頂戴仕候儀御上を輕シ候仕方と乍恐奉存候右死絶候得者殘銀借り御座候無御座候相知不申候所定茂無御座利銀疊上相懸候儀無躰至極ニ奉存候御事

一 殘銀相重り寛保二戌年拾五年賦ニ相究申候処宝永四亥々享保十二未暮貸銀御座候由去々午春私共方々申(立)之此度之訴狀ニ者年賦証文之儀者申隠帳面ニ借り之様ニ申成候得共大キ成偽り御座候右年賦銀ヲ当座貸ニ申立候段迷惑至極ニ奉存候御事

一 宝永四亥年借り銀者享保三戌年新銀被 仰付候節御触ニ者貸シ借り銀壹貫目を新銀貳百五拾目取替可仕旨被 仰付候処割賦シ不仕其儘ニ而元利疊上書出申候段非道之仕方難儀仕候御事

一 文銀被 仰付候節茂貸借り者割増不仕候様ニ御触御座候所五割増ニ仕指引ニ入候段困窮之私共難儀至極仕候御事  
 一 伝兵衛方の殘銀一度ニ遣候茂不相成候ニ付年来壳渡候塩壳内ニ而年々少宛遣候子細者世上一統之直段と者違イ下直之節依ニ付壹分高直之節者式分宛ノ直段ニ壳渡申候壹分式分を平均壹分五厘と仕立壹ヶ年出来塩壳万俵宛壳渡申

候右ニ付内済銀凡五拾年ニ仕合銀七拾五貫目外貳百貳拾九貫五百目五拾年ニ壹割貳分利銀右銀子此度之勘定ニ相立候様奉願上候御事

一 伝兵衛方ノ繩代勘定ニ相立不申難儀仕候前々々茂外浜ニ而茂塩俵結繩買入ノ出申候処殘銀御座候間去ル戌年迄者繩代私共々出置申候凡四拾三年ニ仕繩代壹俵ニ付貳厘只今者三厘宛押シ二厘五毛宛ニ仕壹ケ年ニ出来塩壹万俵押シニ壹候ニ付壹ケ年繩代貳百五拾目宛此繩代銀合拾貫七百五拾目外ニ貳拾八貫三百六拾四匁四拾三年壹割貳分利銀右銀此度勘定相立候様ニ被為 仰付被下置候様御慈悲奉願上候御事

一 右之通相違不申上候右出入之儀先達而私共御領主御役所ノ伝兵衛願出候処被仰聞候者致相對相済候様被 仰付ニ付伝兵衛方に相對仕候得者私共方ノ可請取分茂勘定ニ相立具候様ニ對談仕候得共段々引延置一向無沙汰ニ仕勿論御領主御役所ノ茂願捨ニ仕江戸表ノ罷出御願申上候不埒之伝兵衛故商銀ニ利を被相懸難儀仕候前条申上候通袖乞同前ニ而其日渡リ之者故後々迄不安仕具申儀者奉存候而伝兵衛方好之通年賦証文ニ仕置申候所申隠シ相をり候儀難儀仕候御慈悲を以私共相助り候様ニ被為 仰付被下置候者難有仕合ニ奉存候以上

松平 讃岐守 領分

讃州阿野郡高屋村

宝曆二年申三月

惣代 佐次兵衛  
 塩政所 吉兵衛  
 与頭 常右衛門  
 塩百姓 善四郎  
 同 善四郎  
 同 半十郎

寺社

御奉行所様

乍恐以書付奉申上候

同

七〇

善九郎

同

理右衛門

同

伝十郎

同

惣七郎

同

文七郎

同

伝三郎

松平讃岐守領分

讃州阿野郡高屋村

宇右衛門

右宇衛門儀死失退転仕候

藤次郎

右藤次郎儀右同断

忠左衛門

右忠左衛門右同断

八右衛門

近世瀬戸内海塩田の研究

右八右衛門儀死失幼少之悴御座候へ共当時袖乞  
ニ罷出居所難知

甚 七

右甚七儀右同断

金 兵 衛

右金兵衛儀袖乞ニ罷出居所難知

勘 四 郎

右勘四郎儀絶人ニ御座候延享四卯暮伝兵衛ニ塩

浜不残相渡シ申候

権 四 郎

右権四郎儀前度者権四郎と唱申候へ共其後者市

右衛門と申絶人ニ罷成則寛延元辰暮ニ伝兵衛へ

塩浜不残相渡申候

松 兵 衛

右松兵衛儀絶人ニ相成村方ニ不罷有妾袖乞仕罷有候

久 八

右久八儀絶人ニ相成奉公仕罷有候

源 次 郎

七一

右 同 断

庄（番きかえたるめとあり） 三 郎

右庄三郎儀絶人ニ相成奉公仕罷有候

喜 右 衛 門

右喜右衛門長九郎と前書候得共長九郎と申者村  
方ニ無御座候尤幼年之時長九郎与申候右の間違  
候哉喜右衛門儀ハ当時絶人ニ相成奉公仕罷在候

又 四 郎

右又四郎儀絶人ニ相成奉公仕罷在候

九 兵 衛

右 同 断

新 助

右 同 断

権 八

右 同 断

作 助

右 同 断

小 十 郎

近世瀬戸内海塩田の研究

右同断

伝次郎

右伝次郎儀病死仕候悴者吉郎と申候此度親子之

名前書上候得共親伝次郎相果候

清九郎

右清九郎儀絶人ニ相成奉公仕罷在候

伊三郎

右同断

佐平次

右同断

新六

右同断

山三郎

右同断

伝七

右同断

金三郎

右同断

七三

右同断

七四  
銀右衛門

右同断

長兵衛

右同断

三十郎

右市助儀絶人に相成奉公仕罷在候

市助

右同断

六右衛門

右同断

伝右衛門

右同断

伊左衛門

右同断

善三郎

右同断

仁左衛門

近世瀬戸内海塩田の研究

右同断

丈助

右同断

浅右衛門

右同断

長作

右才八儀去十二月廿日頃々重ク相煩罷有候

才八

善治郎

右善治郎儀当正月十日々持病之疝氣差筈リ以之  
外相煩申候

伝吉

右伝吉儀絶人ニ相成村方ニ不罷在奉公仕罷在候

半左衛門

右半左衛門儀久々眼病相煩申候

金十郎

右金十郎儀久々両足相煩罷有候

惣右衛門



右惣右衛門儀長病ニ而歩行不罷成候

清 次 郎

右清次郎儀老人に御座候所年煩仕腰相立不申候

長 五 郎

右長五郎去十二月初方々痰ニ而相煩申候

甚 兵 衛

右甚兵衛儀久々眼病ニ而當時以之外相煩罷申候

与 助

右与助儀絶人に相成村方ニ不罷在奉公仕罷有候

甚 右 衛 門

右甚右衛門儀去九月中々疝氣相煩立居不罷成候

善 六

右善六儀去暮々相煩申候

吉 左 衛 門

右吉左衛門儀去十月中々相煩罷有候

清 左 衛 門

右清左衛門儀片足短々歩行不罷成候

治 右 衛 門

右治右衛門儀去暮病氣仕罷有候

徳右衛門

右徳右衛門儀幼年者ニ而母親之養育罷在候

清七

右清七儀絶人ニ相成村方ニ不罷有奉公仕申候

平八

右平八儀去十月末病氣ニ而罷在候

兵次郎

右兵次郎儀持病之疝氣差発リ重ク相煩申候

幾右衛門

右幾右衛門儀当正月初病氣ニ御座候所當時以

ノ外重ク相煩申候

利八郎

右利八郎儀絶人ニ相成奉公仕罷在候

六左衛門

右六左衛門去十二月中重ク相煩申候

岩右衛門

右岩右衛門儀久々痠性ニ而相煩居候所去九十二

月々別而重ク相煩申候

七八

貞 右衛門

右貞右衛門儀正月初ハ相煩罷在候

夫 兵衛

右夫兵衛儀持病ニすは□□御座候処別而去十月ハ中  
ハ強ク差發リ申候

権 右衛門

右権右衛門儀持病ニハむ年むし御座候所去十二月  
寒中ハ別而差重リ罷在候

貞 八

右貞八儀痰性ニ御座候所別而此節強ク差發リ申候

善 七

右善七儀去十月末ハ腹痛重ク相煩申候

伝 兵衛

右伝兵衛儀病死仕候間悴伝三郎此度罷出候

伝 三郎

右伝三郎儀伝兵衛悴ニ御座候所親子名前書上候  
得共右親伝兵衛病死則伝三郎此度忽代罷出候

近世瀬戸内海塩田の研究

右理右衛門此度罷出候

理右衛門

右善九郎此度罷出候

善九郎

右同断

常右衛門

右同断

伝十郎

右同断

惣七郎

右同断

文七郎

右同断

吉兵衛

右同断

善四郎

右同断

半十郎

七九



近世瀬戸内海塩田の研究

同 伝三郎

絶人ニ而奉公罷出候者

同 松兵衛

同 久八郎

同 源次郎

同 善七郎

同 庄三郎

同 喜右衛門

同 又四郎

同 九兵衛

同 新助

同 権八助

同 作助

同 小十郎

同 伝次郎

同 清九郎

同 佐平次

八一 長作

八二  
新 山 伝 金 銀 長 三 市 六 伊 依 六 三 善 仁 丈 浅 才 依 金  
三 三 三 右 兵 十 右 右 左 三 左 右 右 八 吉 十  
郎 郎 郎 衛 衛 郎 衛 衛 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 郎  
六 郎 七 郎 郎 門 衛 衛 助 郎 郎 門 門 門 門 門 門 門 門 門 郎

近世瀬戸内海塩田の研究

清 次郎  
惣 右衛門  
長 五郎  
甚 兵衛  
善 六  
清 左衛門  
治 右衛門  
徳 右衛門  
清 七  
兵 次郎  
利 八郎  
六 左衛門  
夫 兵衛  
貞 八  
権 右衛門  
半 右衛門  
善 次郎  
与 助  
八三



甚右衛門

吉左衛門

平八

幾右衛門

岩右衛門

貞右衛門

勘四郎

權四郎

伊三郎

寺社

奉行所様

乍恐書付ヲ以奉申上候

先達而申上候通大地震以來段と及困窮不払仕候故訴訟方前貸シ銀ニ相成候子細者年と前年之殘銀を仕切之元ニ仕候而指引仕候故依兵衛茂前銀貸と申上候依之仕切と茂申酉杯と名録出候茂御座候此儀年々付出候故右之通ニ御座候勿論殘銀ニ而無之前銀貸シニ候得者手形証文御座候得共新ニ去ル辰年ニ借り不申古貸年々付出候故大銀ニ候得共証文等ハ無御座右申上候通數年殘銀ニ候間了簡致シ具候様ニ内とニ而度々詫致候得共得心不仕迷惑仕候勿論延享四卯年前之殘銀を是又年賦証文入置候茂御座候段とたまりニ御座候此段乍恐御賢察可被下候御吟味之節申上候通延享元子ノ寬延元辰年迄五ヶ年分塩俵結繩代銀七百五拾目同年ノ五年分塩直引銀七貫五百目都合八貫貳百五拾目勘定銀ニ相立分此度勘定ニ相立候様ニ此上之御慈悲を以被 仰付被下置候ハハ難有奉存候以上

宝曆二申年三月

讃州阿野郡高屋村政所

惣代

佐次兵衛

吉兵衛

常右衛門

半十郎

利右衛門

文七郎

善四郎

善九郎

惣七郎

伝三郎

伝十郎

御奉行所様

乍恐書付を以奉御訴申上候

先達而備前国赤崎村出入之儀及御吟味候所私共取扱仕度御申下ケ奉願上願之通被為 仰付罷有奉存則具見差加候  
所双方共熟談得心之上少茂違乱申分無御座候出入一件内済仕候然上者何とそ済口証文奉指上度候依之右之段奉御  
訴申上候以上

小伝馬町三丁目幸年屋

近世瀬戸内海塩田の研究

第二十五卷 第四号

宝曆二申年四月

八六

訴訟方宿

茂兵衛

牛込御簞笥町崎玉屋

相手方宿

喜右衛門

御奉行所様

覺

式日

御評定御立会日

御内寄会日

右御評定御立会日外茂間々御吟味御座候

寺社御奉行

松平右京亮様

右同断

青山因幡守様

右同断

本多長門守様

町御奉行

能勢肥後守様

右同断

山田伊豆守様

金

四日

日

十一日

金

廿一日

廿五日

廿七日

六日

日

十八日

御勘定御奉行公事方

松浦河内守様

右同断 道中御奉行兼帯

永井丹後守様

右同断 御勝手方

神尾若狭守様

右同断

曲淵豊後守様

御勘定留役公事御吟味兼帯

土山藤右衛門様

柿見兵左衛門様

大原彦四郎様

佐久間右兵衛様

野呂吉重郎様

原与市兵衛様

中村藤左衛門様

安条吉左衛門様

池田順太郎様

道中方

芝田善兵衛様

一 備前国児嶋郡赤崎村伝兵衛年来塩売買仕候所右代銀懸り合御座候ニ付江戸表に伝兵衛を御訴訟申上候而去未十月

ニ 三御奉行様 御判頂裁仕候而私共方の相附候ニ付当申ノ正月廿五日高松御川を私共出船仕同廿九日朝兵庫に

着船仕折節風向悪敷渡海不罷成候間指急キ申ニ付此所ニ而飛船借り押切同日夜ニ入大阪に着仕翌晦日早朝御屋敷

近世瀬戸内海塩田の研究

に御用状指上同晩方ニ江戸御屋敷の御用状請取則伏見迄夜船ニ乗二月朔日四ツ時伏見の着仕夫の早と出足仕候而第十五日江戸御屋敷の参着仕候所ニ於御台所昼食被 仰付頂裁仕井上徳右衛門様御取計ニ而小使衆兩人御添被下崎玉屋喜右衛門方の宿被 仰付落付翌十六日右出入一件喜右衛門の委細申聞ケ其上返答書並八十一人之内死失絶人病人夫レノ意味書わけ卷通共相認指上申等之所喜右衛門申候者右御召状差日者来ル三月四日ニ而有之候得者余日茂御座候間急ニ着届仕返答書並不参人之意味書指上候而者不参人大勢ニ付若又名代ニ而茂指出候様ニ国元ノ飛脚ニ而茂遣儀茂無心元奉存候旨申ニ付私共相談之上然者今暫ク指招御指日前迄ニ着届ケ仕候而則右返答書並不参人意味書共ニ差上可申と相談相究メ候而

一二月廿九日御掛リ青山因幡守様の着届ケニ罷出申候返答書不参人意味書両通又御判物並伝兵衛方去々午十二月私共方の催促書出シ帳面卷冊並午六月御国御役所の伝兵衛方指上ケ申候訴状写シ卷通共指上候所ニ御取次御役人様ノ被 仰付候者右之通請取申候間今日者相仕廻候様ニ被 仰付候ニ付罷歸リ申候三月二日因幡守様ノ御使者御差紙御持参ニ成候而喜右衛門方の御渡シニ成候所喜右衛門右御差紙之通奉畏候と請取相認御使者へ相渡シ申候御使者御歸ニ成候跡ニ而喜右衛門方右御指紙之趣申聞承知仕候明三日五ツ時ニ御窺ニ佐次兵衛始外百姓式三人喜右衛門ニ召連れ可罷出旨之御指紙参候依之三日ニ因幡守様江御窺ニ罷出申候所彌明四日朝五ツ時御評定所江罷出候様ニ被 仰付則御判物返答書並新古之証拠ニ可成右両通共ニ御返シ不参人意味書斗御残シニ遊候而右御判物返答書者御評定所の指上ケ可申旨被 仰付候尙又証拠ニ指上候両通者手前方の指出候義者無沙汰致シ重而御評定所ニ而新古並元銀利銀之相分りかたく候節証拠に指出儀宜可有之と被仰付奉長請取罷歸リ申候

一三月四日御評定所の罷出候所ニ三御奉行様方御揃訴訟方並私共双方御前の御召被遊候ニ付御判物並返答書尙証拠可成右両通相添指上申候所ニ御留役様方之内御参人御前の御出掛ケニ而伝兵衛方指上候訴状御読被遊候而次ニ

私共の指上申候返答書御読掛ケ被成候所御前々私共の被 仰付候者訴状面之銀高彌借リ諳ニ相違無之哉と被  
 付候ニ付私共の御答申上候者宝永年中の之殘銀ニ御座候所莫大之利銀相掛ケ尙又銀高大キニ相違御座候と申上候  
 処ニ御前々然レハ吟味可致旨被 仰付双方罷立候様ニ被 仰付双方共罷立候而人溜リニ而指控ヘ居申候処ニ三御  
 奉行様御立被遊候跡ニ而御留役池田順太郎様御召被遊候付双方罷出候所ニ私共の御吟味被遊候者相違有之候儀  
 委細可申上旨被 仰付候ニ付申上候者宝永年中の之殘銀を当分貸シ之様ニ御訴訟申上候者大キ成ル偽リニ而御座  
 候最早五拾年ニ及申候故私共祖父親之代之殘銀ニ而御座候間曉と不存儀ニ御座候殊ニ午(寛政三)春私共方の初而  
 此儀催促申參候ニ付驚入帳面相改候所ニ宝永之殘銀ハ八貫目余之銀高を此度五拾貫目余ニ元利疊上ケ相掛候段難  
 儀仕何候とそ御慈悲之上私共相助リ候様ニ奉願上候尙又其後享保年中寛保年中年賦ニ仕候銀子茂御座候所ニ段々  
 彌重ニ上候者相見ヘ申候此等之儀御吟味奉願上候と申上候依之訴訟方伝兵衛の右之段ニ御吟味被遊候処伝兵衛申  
 全ク相手方之もの共申候者偽リニ而御座候是迄一錢も利銀者取不申候殊ニ延亨四卯ノ暮翌辰ノ暮兩年分斗ニ而茂  
 拾七貫目余御座候と申候もはや兎や角申内夜ニ入申ニ付先今日者相仕舞候様ニと被 仰付候間罷立歸リ申候同十  
 二日例之通因幡守様の御伺ニ罷出申候

一同十三日御評定所の罷出候所池田順太郎様御吟味被遊候所ニ私共前々之殘銀と申立伝兵衛者卯辰兩年之滯杯者  
 不殘正銀新貸シと申伝兵衛江戸宿幸年屋茂兵衛添口上申候者成程只今伝兵衛申候通新貸ニ而御座候相手方殘銀と  
 申候者偽ニ而御座候と申候ニ付其元者御当地宿屋人と見請申候左候得者式百里隔テ上方銀子掛合之意味其元ニ存  
 居申様無之茂いはれぬ伝兵衛の腰押シ之添口上無用ニ候宿屋斗致居申候様ニと段々入レ込ミ申候得者幸年屋茂兵  
 衛其後者罷出不申候而手代斗相添出申候事当伝兵衛添人理兵衛と申者初日ノ段と添口上申ニ付初日者御前々添口  
 上者無用と被 仰付候処又今日右理兵衛何角添口上申ニ付右幸年屋同様ニ入レ込候得共再忠指出口申ニ付其元

近世瀬戸内海塩田の研究

ハ伝兵衛奥耳ニ付添耳之御願申上添耳ニ有之候処添口上申儀者一言茂不罷成候意外千万と入込候得者其後者相止リ申候然所段と伝兵衛者相手之私共申分偽と申上私共者訴訟方伝兵衛偽リ工ニ御座候と申候而楽ニ論ニ及申候所御上ノ段と伝兵衛を御呵被遊候ニ付私共も舞り居申候所ニ先ツ立候而指控申様ニと被 仰付候間溜リニ而控居申候処御召被遊候ニ付双方罷出候所池田順太郎様被 仰候者最早夜ニ茂入申候間今晩者相仕廻候様被 仰付候所ニ奥ノ御同役土山藤右衛門様御出向被遊候而御加役分ニ而御吟味御座候間私共ノ者前度ノ申上候通宝永ノ之仕送り之様子申上候処甚々御呵被遊候祖父之借リ者孫ノ私親之借者子ノ私作法之物を左様我儘斗申候得者籠舎可被仰付由御申被遊候私共ノ再応申上候通神乞同前之百姓共ニ而御座候間幾重ニ茂御慈悲之上相助リ申様ニ被 仰付可被下候殊ニ宝永四亥年十月四日大地震者塩浜釜釜迄茂ゆり崩し是ノ先祖茂不勝手ニ罷成申候由親共ノ伝ヘ承居申候右残銀伝兵衛方江壳置候塩茂出来仕リ御座候所右大破ニ罷成候ニ付流捨リ依之残銀少ク者御座候由承及申候然所五拾年ニ及申候元銀ノ利銀仕候ニ付莫大之銀高ニ仕相掛リ候段難義至極仕候事何卒御慈悲奉願上候と申所然レ者相手方之者共も只借込横たえ申候儀ニ而茂無之候間訴訟方伝兵衛茂幾重ニ茂了簡致シ相手方之者共茂伝兵衛ヘ根ト入訖仕候而内済仕候様ニ双方宿屋共も取扱仕候而相済様ニと被 仰付候先ト夜ニ入候間罷帰り候様ニと被 仰付候同廿日因幡守様ノ御伺ニ罷出候

一同廿一日ニ御評定所ノ罷出池田順太郎様ノ御届ケ申上候所追而御召被遊候ニ付双方罷出候処御上ノ被 仰候者頃日内内済挨拶宿屋共如何仕候哉と御尋被遊候ニ付私共ノ申上候者頃日被 仰付ニ而御座候間宿相頼候而段々訖再応仕候得共得心不仕候間相済不申候と申上候然ル所御上ノなぞ伝兵衛訖開届ケ相済シ不申哉と被仰候所伝兵衛宿幸年屋茂兵衛申候者式千両ニ及申候金子ノ当金拾両国元ニ而拾両年賦払都合式拾両迄之訖ニ御座候得共何分訴訟方茂得心不仕候と申上候其所ノ御同役大原彦四郎様御出掛ケ被遊候而御加役分ニ而御吟味御座候而証文仕切帳面杯

御覽被遊候而或程相手方之者共申候通宝永年中其外子年以前者御大法之通御取上ケ無之候間相對ニ可致旨被  
 付相殘リ子年以來之分何程有之候哉と被 仰付候処伝兵衛申上候者拾七貫目余子年已來之証文帳面御座候殊ニ寛  
 保三亥ノ丑迄十五年賦ニ仕候銀子も御座候此銀高茂三拾九貫目余内元六分歩入請取申候而相殘或拾貳貫目余未  
 夕年茂殘リ居申候間是又何卒御慈悲奉願上候子年以前者御大法ニ而御取上ケ無御座候茂如何可申上様茂無御座候  
 年賦殘元並卯辰兩年滯都合三拾九貫目余之分何とそ返濟仕候様ニ被為仰付被下置候者難有奉存候と申上候間私共  
 ノ申上候者只今伝兵衛申上候年賦銀之儀大不埒ニ而御座候拾五年之年茂濟不申内御訴訟申上候段不届之仕方御座  
 候殊ニ此度訴狀ニ者年賦之意味書不仕新賃シニ仕候而御願申上候通之偽者ニ而御座候其子細宝永年中之殘銀享保  
 十式未十一月廿九日ニ帳面書更相渡シ御座候事只今御前におゐて帳面御見世被下候ニ付見届候所ニ是を宝永四亥  
 ノ暮滯銀と仕候而四拾貳年元利疊上ケ彌重仕出シ銀高莫大ニ仕候段偽リ之申様言語絶候年賦銀之内文銀更増之節  
 故滯銀ニ五割増なと茂仕取居申候此等之儀者御大法を相背我儘仕居申候文銀被仰付候節茂貸シ借り者割増シ不仕  
 取遣可仕旨被 仰付候然レ共私共者無調法者故殊ニ銀主ニ押レ伝兵衛好之通仕只今後悔仕候殊更年賦証文ニ茂享  
 保十二未暮ノ当茂暮迄と文書ニ仕御座候間享保滯銀年賦ニ入居申候証扱是ニ而相分リ申候宝永之殘銀元利疊上ケ  
 此度訴狀之内五拾貫目余ニ罷成居申候者彌重ニ紛無御座候少シも偽成ル義不申上証扱者此等ニ而乍恐相知レ申候  
 時ニ伝兵衛何角仰上候得共御上ノ被 仰付候者何分ニ伝兵衛申候而茂子年ノ前之儀者御取上ケ無之候卯暮証文並  
 翌辰暮仕切狀滯銀双方共証文帳面之通相違無之候哉と御申被遊候ニ付私共ノ申上候者銀目ニ者別而相違茂無御座  
 候得共全ク卯暮杯之証文者寛保式或暮年符証文質物間違卯暮書文申候銀子元來者宝永ノ仕送り銀子ニ而御座候辰  
 暮仕切不足迎も右同様之義ニ御座候と申上候処ニ伝兵衛中ノ左様ニ而者無御座候卯暮辰暮共正銀を貸シ申候ニ相  
 違無御座候と樂ニ申合イ 訳立不申候ニ付滯取り又ノ夜ニ入申候間先今日者仕廻候様ニ御申被遊候同廿四日因幡守



様御竊ニ罷出申候

一同廿五日ニ御評定所ヨリ罷出例之通順太郎様へ御届申上候追而御召被遊候又ニ御加役分ニ而大原彦四郎様御立合ニ而御吟味御座候先子年以来者金高ニ積リ何程と御尋御座候所ニ伝兵衛ノ申上候者凡金ニ仕候而三百兩程ニ御座候と申上候依之私共ノ申上候者左様ニ而者無御座候先証文帳面之通ニ仕候而茂式百參拾四兩何歩と申物御座候伝兵衛申上候者利銀相掛候而申上候儀と奉存候旨申上候所ニ御上ノ彌伝兵衛此分ニも利足を加へ有之哉と御尋被遊候所ニ成程利銀掛リ居申候由申上候時ニ御上ノ殊外御呵リ被遊候商銀ノ利分相掛候様會而無之候と御呵然者如何様共と申候而式百三拾五兩ニ減少仕候所ニ私共ノ者証文帳面ニ者子年以来と御座候得共全ク新借リニ而者無御座候年ニ仕送り銀ニ而御座候と申上候然者其証拠有之候哉と御申付被遊候ニ付証拠ニ可成事共段々申上候而双方共ニ新古之わけ不申候あの方々者証文帳面之年号を新敷証拠ニ申立私共者此義者慥ニ成リ不申尤世上取遣者証文之年号ニ而新古之わけ立申候得共伝兵衛と出入之銀子証文帳面之年号者慥ニ成リ不申候其子細者享保十二未暮ニ仕更申候帳面を宝永年中ニ滞銀之由ニ而宝永ノ利銀ヲ掛則宝永四亥滞と申上候上者私共申上候通証文帳面之年号慥成不申候と申上候処ニ伝兵衛者何分此義相手方之者共偽リニ而御座候と論ニ及申候所ニ御上ノ被仰候者伝兵衛論仕候事不罷成候相手方之申道理も有之候宝永年中之殘銀享保拾式未暮ニ仕更帳面尤ニ相聞へ申候相手方之者共も卯辰分者有様ニ申分リ候様ニ仕ル方勝手ニ茂罷成可申由被仰付候大勢之者共一日ノ逗留仕候而何角物入茂相増難儀と察入候と被仰候依而御意ニ御座候得共前度より申上候通何分卯辰四年ニ借リ申候銀子ニ而者無御座候と申上候所ニ御上ノ成程伝兵衛新貸と申候得共皆迄新貸とも相見へ不申候仕切帳内申酉並年賦元入杯と名目之相立居申候茂有之候間左候得者皆と新貸とも不被申此わけ正直ニ書訳可申候旨被仰付候先名目相立候分引殘り式百貳兩壹分余と減少仕候而指出申候然者此金高者彌伝兵衛申候通卯辰兩年滞りと私共方御尋被遊候付全ク

さ様とは無御座年々之残銀ニ而御座候と申上候而委細相訳り不申候ニ付又と今日茂夜ニ入申候間双方共相仕舞申候様被仰付奉畏罷歸り申候同廿七日俄ニ因幡守様御用御座候由御差紙參候ニ付私共御伺ニ罷出候所ニ明廿八日御評定所可罷出旨被 仰付御座候

一同廿八日朝五ツ時ニ御評定所可罷出候而池田順太郎様御届ケ申上候追而訴訟方並私共御召被遊候ニ付双方罷出申候所ニ頃日も吟味仕候通式百式而壹分余之金數双方共ニ不偽有様ニ可申上由被 仰付候付私共毛頭偽不申上候宝永年中之残銀年々仕送りニ仕書出シ申候銀子ニ而御座候其証拠者辰暮任切状滞銀杯ニ者辰翌十月何日迄之仕切不足と御座候得共年々仕送りニ相違無御座候殊ニ卯暮才八ハ入居申候年符証文之銀子訴訟方申上候者正銀卯暮ニ貸シ渡シ申候と申儀者大キ成偽ニ而御座候此銀子者享保年中之残銀寛保式戌暮拾五年賦証文則借リ主常右衛門ニ而御座候所四年分払込相残り壹貫四百八拾目余卯暮滞ニ成居申候ニ付内証ニ而才八ハ取更御座候故卯暮ニ証文仕更則才八借リ請と仕候伝兵衛方ハ相談之上取替古証文者取返シ御座候此度右寛保ニ戌暮常右衛門借リ請有之候様ニ御訴訟申上候茂彌重ニ御座候卯暮才八ハ入居申証文之銀子用申候得者戌暮常右衛門借リ者無之義ニ御座候此段乍恐御吟味奉願上候と申上候所然者右戌暮常右衛門方ハ置候古証文取返シ居被成と御尋被遊候ニ付右取返シ居申証文早速御前指上候処ニ御覽之上此儀伝兵衛如何と被仰候所ニ伝兵衛其儀者如何間違居申候哉左様之彌重ニ罷成居申答ニ無御座候何分卯暮才八ハ請取居申候証文之銀子者正銀新借シニ而御座候と申候ニ付又私共ハ申上候者金ク左様ニ而無御座候正銀貸シニ御座候得者端銀可有之様無御座候殊ニ正銀新貸しと御座候得者相応ニ利分之約束茂有之筈残銀証文仕更之証拠者元濟拾年賦ニ仕御座候尙又彌重と申上候儀先刻も申上候通常右衛門身請壹錢茂伝兵衛方貸リ無之義を此度訴状ニ壹貫六百目余有之杯と申掛リ候段不埒之伝兵衛ニ御座候常右衛門借リ請と御座候証文者不及申上其外少シ之書面ニ而茂借リ御座候此段御吟味被 仰付可被下候少シ茂借リ之覺

無御座候若又偽申上候者如何様御料ニ茂被 仰付候共違背仕間布候と丈夫ニ申上候処依而段と伝兵衛の御吟味御座候得共彌重ニ成居申候故当惑仕候事重而御前ふ被仰付候者今日者外御用指支申候間双方共相仕廻明廿九日又御評定所の朝五ツ時ニ双方共ニ可罷出旨被 仰付奉畏則御懸リ因幡守様の右之通今日も暁と相訳リ不申候又々明廿九日罷出候様被 仰付候段御届ケ可申上旨被 仰付候ニ付奉畏右之通リ因幡守様の御届ケ申上罷歸リ申候一廿九日御評定所の罷出池田順太郎様へ御届申上候所ニ追而双方御召被遊候ニ付罷出又又及対決候処大原彦四郎様御加役分ニ而御出掛ケ御向人様御立合ニ而御聞被遊候訴訟方者何分卯辰之賃銀者翌己ノ出来塩当ニ入置候所ニ相手方之者共辰暮ニ至リ横た多塩判書と申証文相渡シ呉レ不申候ニ付此通無是悲御訴訟申上候間御威光ヲ以何卒子年以来之分急ニ返済被為仰付可被下候様ニ御慈悲奉願上候と申ニ付私共申上候者中々様ニ而者無御座候辰暮月廻仕候而例年之通ニ其元之塩得買取り不仕候と申候故五拾年以来伝兵衛喜人の敷売ニ仕候間外ニ商売之馴染茂無之候ニ付俄之儀故迷惑仕候様ニ付両度備前の渡海仕候而段と相頼買戻候様ニと申候得共銀詰リ杯と申買戻不申無是悲是問喰離レ申候幾度も申上候通宝永の殘銀ニ相違無御座候然者御前相手方之者共此仕切状之奥ニ殘銀之様子さけ札仕候様ニ被 仰付候間御殿御縁迄御免被 仰付双方共立合相改指出申様ニと被 仰付候付私共下ケ札ニ寛保式戌暮辰ノ暮迄年々殘銀仕送りニ而御座候と書付仕候所ニ伝兵衛私共の申候者夫レ者間違ニ而有之候中々戌の年々殘銀ニ而者無之其下ケ札無用ニと指留申候間私共伝兵衛の申候者いはれざる指出私共へ御前下ケ札仕候様ニ被 仰付候間面々了簡一通り下ケ札仕候其上其元如何様共存分ニ下ケ札仕指出シ兩方御吟味之上何れを御用ひ被遊候共御前之御下知ヲ可被相待と申崩シ私共右之通下ケ札仕指上申候伝兵衛者何と心得申候哉下ケ札茂得不仕其儘ニ而控へ居申候所ニ御上ふ被仰候者彌金高並下ケ札相違無之哉と御吟味御座候処一同ニ双方共御意之通少茂相違無御座候と御答仕候依而相違無之口書並銀子三人之間屋共の貸渡御座候処大勢之百姓共

相手取り申候儀伝兵衛無調法尙又佐次兵衛銀右衛門六郎衛門三人之者共自分の金請取借リ請居申候而百姓共の申候有之候迎人別帳面認伝兵衛方の相渡シ大勢の百姓共相手為取申候無調法双方共口書認候而連印指上ケ申様ニと被 仰付候ニ付奉畏口書仕連印指上申候所もはや夜ニ入候間相仕舞候様ニと被 仰付候間罷歸リ申候四月朔日因幡守様の御親罷出候所ニ明二日朝五ツ時御評定所の罷出候様ニ被 仰付奉畏

一同二日御評定所の罷出池田順太郎様の例通御雇申上追而御召被遊候間訴訟方並私共罷出申候処ニ又ト大原彦四郎様御加役分ニ而御吟味御座候処去ル廿九日口書仕候と伝兵衛今日申候者相違仕候旨御上ノ御尋被遊候所ニ伝兵衛御答仕候者去ル廿九日下ケ札者相手方より氣儘ニ仕候下ケ札ニ而御座候全ク成より年々之残銀ニ而者無御座候と申上候処ニ御上ノ伝兵衛殊外御呵被遊候者去ル廿九日金數並下札相違無之候哉と段ト詮儀仕候所ニ相違無之由ニ而口書迄指置今更相手方ニ仕候下ケ札杯と偽リケ間敷儀申候得者急度可申付様有之旨被仰出候処伝兵衛茂無調法故当惑仕候而返答得不申上候御上ノ御慈悲ヲ以左候へ者去ル廿九日之下ケ札之儀者見損シ候段奉誤候ハ、再底御吟味被成可被下旨被 仰付候ニ付依而伝兵衛奉誤候何とそ此上御慈悲を以宜敷様ニ奉願上候と申上候難有御上ノ伝兵衛の然レ者見損シ之誤リ手形相認指上ケ候様被 仰付早速一札指上申候旨又ト私共の新古之滯有様ニ可申上旨被仰付候間私共ノ御答申上候者何分下ケ札之通少茂相違無御座候此上者乍恐正銀新貨シと伝兵衛ノ達而御願申上候者新貨シ証拠定而伝兵衛所持仕居申候と奉存候間訴訟方に御吟味被為遊可被下候私共の幾度御吟味被 仰付候而茂右申上候より外少茂相違無御座候と申上候得者夫ノ伝兵衛の段ト新貨シ之証拠ニ而茂有之候哉無左候ハ八年々付込元帳指出シ申様ニと被 仰付候所伝兵衛申上候者右帳面持参不仕候因元ニ殘置御座候と申上候付御上ノ然者双方共ニ内済者不仕新古之争ひ斗申埒明キ不申候間因元の帳面取ニ指遣シ候様伝兵衛の被仰付候ニ付夫ノ伝兵衛茂当惑仕候もはや夜ニ入申候間今日は相仕廻之様被仰付明後四日罷出候様ニ被仰付候と御掛リ因幡守様へ

御届ケ罷帰リ候可申旨奉畏候而罷帰リ申候衆ニ宿の婦リ掛伝兵衛宿の私共の申候者右之御様子有之候得者迎も国元への帳面取寄せ不申候而ハ相濟不申様子ニ相聞へ申候左候得ハ伝兵衛殿始其元様方ニ茂大勢長逗留被成候様ニ罷成候而者双方宿屋茂気毒ニ奉存候今一応内済取扱仕候而内済仕度旨申候付伝兵衛始私共茂得と相考候所際取申候而者公事ヲ意勝ニ仕候而茂其内諸入目ニ費申ニ付宿申通り然者内済ニ茂可致哉と申途中之儀故相談不罷成候ニ付其晩者罷帰リ翌三日神田明神之社地茶屋を借り双方宿諸共出合右相談仕候処伝兵衛者当金七拾兩迄ニ而相濟せ可申と申候私共者右の申掛リ故才覚茂不罷成候得共当金拾兩国元ニ而拾兩年賦払ニ取具候様申候処ニ伝兵衛宿屋幸年屋茂兵衛申候者相手方之衆中能御了簡被成候而左様公事向ニ不被仰候共何とそ内済可然由申候ニ付私共の答申候者茂兵衛殿御挨拶ニ御座候得共当時御入目さへ遣切レ当分者喜右衛門との世話ニ罷成居申候間金子余變相調不申候拾兩當時出シ申候と挨拶致候金子茂未相調不申候御領主御屋敷ニ而相借リ願上御座候仕合ニ有之候得者何分余慶才覚不罷成候と申候処茂兵衛の喜右衛門の相談之上然者喜右衛門申候者国元ニ而年賦銀少と者相増せ可申候と挨拶仕候得者茂兵衛申候者迎も夫レニ而者相濟不申候式千兩ニ及申候金子の右之通ニ而者違而拙者の伝兵衛殿の挨拶難仕と申ニ附然者年々及不立申候と私共罷申ニ付伝兵衛添人理兵衛申候者何分ニ内済可仕候間先今日者相濟不申候迎も私付添居申候間伝兵衛何と申候共私吞込相濟せ可申候向後宿屋衆へかゝハリ不申御直談ニ相濟せ度と申ニ付先今日者晩刻ニ茂相成候間追而と申双方罷帰リ申候則晩方ニ因幡守様の御伺ニ罷出申候所彌明四日御評定所の罷出候様ニ被 仰付奉畏罷帰申候

一同四日御評定所人溜リニ而右理兵衛段と私共の内済致具候様ニ申候ニ付義理詰ニ罷成宿屋の然者年賦之分式拾五兩迄可仕候間年長ニ取申様ニと扱申候間無抛其分ニ私共請申候所ニ伝兵衛者何分七拾兩之内ニ而者相濟せ不申と申候ニ付然者御評定へ罷出御吟味之上御下知次第と申候所ニ追付御上の御召被遊候依而私共御評定所御門迄出掛

ケ申候処理兵衛欠来リ何分ニ茂内済可仕候間先相待具候様ニと申ニ付指控へ居申候所宿喜右衛門扱之通当金拾両並式拾五両国元ニ而年賦払と相究メ是ノ而宿御評定所ノ罷出出入費下ケ申候翌七日ノ九日迄神田社地茶屋ニ而為取替証文漸ニ相調九日ニ早速済口証文指上候所ニ出入費下ケ内済仕候と双方宿屋願書壹通指上候上ニ而済口証文可指出旨被 仰付候ニ付然者明日右願書指上可申と御願申上候へ者明後日迄御用ニ御取込被遊候由來ル十二日済口証文共一所ニ指上ケ申様被 仰付奉長罷歸申候而十二日ニ右両通共指上候所御取次御役人様被仰候者明日者御評定日ニ而有之候明朝五ツ時ニ御評定所ノ指上可申由被仰付候

一同十三日御評定所ノ済口指上相済伝兵衛方ノ右御判物御渡シ被遊御判夫ト御屋敷ノ持參候而御消請因幡守様へ指上候而則十三日御前ニ於ゐて御暇被 仰付候間十三日晚方ノ翌十四日八ツ時迄ニ御屋敷ノ大坂へ之御屋敷迄之御用状御認被下請取十四日晚方江戸表出足仕候而当五月五日ニ大坂ノ着仕候而右御用状御屋敷ノ指上ケ翌六日四ツ時迄ニ御国ノ御用状御調被下請取船便無御候候故方ノ相尋申候所ニ多度津ノ年七日晩方ニ出舟仕候ニ附船せり申候得共無捩頼便船費同九日ニ御国ノ着船仕候処折節風向悪敷殊右便舟故漸大蕪浦乃生崎迄つけ呉候而船揚り仕候事

### 爲取替申扱証文之事

一備前国児嶋郡赤崎村伝兵衛申上候讃岐国阿野郡坂出村惣兵衛北高屋村才八外八拾人方ノ塩代前銀九拾六貫百七拾九匁七分相滞候ニ付去未十月

青山因幡守様ノ御願申上御裏 御判頂裁相済候処相手坂出村惣兵衛滞銀壹貫貳百九匁三分当正月内証ニ而不殘請取北高屋村才八外八拾人滞銀九拾四貫九百七拾目四分相済不申当申三月四日御評定所ノ罷出及対決証文仕切帳段ト御吟味被爲成下候処双方江戸宿取喫申度出入御願申下シ取扱候品左之通御座候段

一 滞銀九拾四貫九百七拾目四分

内

八拾四貫九百貳拾三匁九分六厘

是ハ亥年以前年来滞銀故扱人方へ囉請無出入相濟申候

拾貫四拾六匁四分四厘

是者子年以来借銀ニ而御座候

内

七貫九百四拾六匁四分四厘

此分噉人<sup>アツクイ</sup>に囉請相濟シ申候

残而貳貫百目

此わけ

六百目 当時伝兵衛方へ請取

三百目 来ル酉六月同人方へ請取候答

三百目 戌六月同人方へ請取候答

三百目 亥六月同人方へ請取候答

六百目 子ノ六月同人方へ請取候答

右之通取扱候処双方和融 御威光を以無出入内濟仕候然上者此儀ニ付双方共ニ出入ケ間敷儀無御座候依之双方並扱人連判為取替証文仍而如件

宝曆貳年申四月九日

松平大炊頭領分

備前国児島郡赤崎村

伝兵衛 印

松平讃岐守領分

讃岐国阿野郡北高屋村

佐次兵衛 印

同村与頭 吉兵衛 印

同村百姓惣代 常右衛門 印

同 利右衛門 印

同 伝十郎 印

同 惣七郎 印

同 善四郎 印

同 半十郎 印

同 善九郎 印

同 伝三郎 印

同 文七 印

小伝馬町三丁目 幸年屋

訴訟方宿扱人 茂兵衛 印



牛込御簞笥町 崎玉屋

相手方宿扱人 喜右衛門 ㊦

相手方

一札之事

一宝永年中、塩代前銀滞都合九拾四貫九百七拾目四分人数八拾管人ニ而相滞候ニ付去十月中寺社御奉行 青山因幡守様御願申上御裏書相附双方御評定所ニ罷出及御吟味候処此度取扱ニ相成候処何分 御裁許御請可被成段御尤ニ候得共私義不埒之旨御吟味ニ而被仰願之通難相立候ニ付内ニ而相済候儀相願候御了簡を以取扱ニ仰付被下置存候然上者只今迄之滞銀者勿論私方ニ書物並証文残居申候共反古御座候是迄之銀子内済申候為其一札仍而如件

備前国児島郡赤崎村

訴訟人 伝兵衛 ㊦

宝曆貳年申四月九日

同村証人 利兵衛 ㊦

讃岐国阿野郡北高屋村

塩政所 佐次兵衛 殿

岡村興頭 吉兵衛 殿

岡村問屋 六郎右衛門 殿

惣 衆 百 姓 衆 中

右伝兵衛方ノ譜取申候濟口本証文武通高松郡御奉行様御役所ニ御請取被遊写シ而通私共方ニ被下置候証文右之通

ニ御座候尙又左ニ記シ申候者郡御奉行様ノ私共方ニ被下置候御預リ手形之写シニ而御座候

覺

一備前国児嶋郡赤崎村依兵衛高屋村塩百姓相手取訴状之銀目於江戸扱人出入内済為取替之証文卷通

一右依兵衛ノ外添一札卷通

右通本紙者役所ニ預リ置写シ別紙式通塩百姓ノ相渡置候条仍如件

古市直右衛門

宝曆二申五月

西岡與兵衛

高屋塩濱

覺 [次表と共に一枚  
續きの紙にあり]

式日

二日 十一日 廿一日

御評定御立会日

四日 十三日 廿五日

御門寄会日

六日 十八日 廿七日

右御評定御立会日外茂間ニ御吟味御座候

寺社御奉行

松平右京亮様

右一同断

青山因幡守様

近世瀬戸内海塩田の研究

第二十五卷 第四号

右 同 断

本多長門守様

町御奉行

能勢肥後守様

右 同 断

山田伊豆守様

御勤定御奉行公事方

松浦河内守様

右同断 道中御奉行兼帯

永井丹波守様

右同断 御勝手方

神尾若狭守様

右 同 断

曲淵豊後守様

御勤定留役大御御吟味兼帯

土山藤右衛門様

大原彦四郎様

野呂吉重郎様

中村藤左衛門様

池田順太郎様

道 中 一 方

芝田善兵衛様

宝曆貳年申正月

柿見兵左衛門様

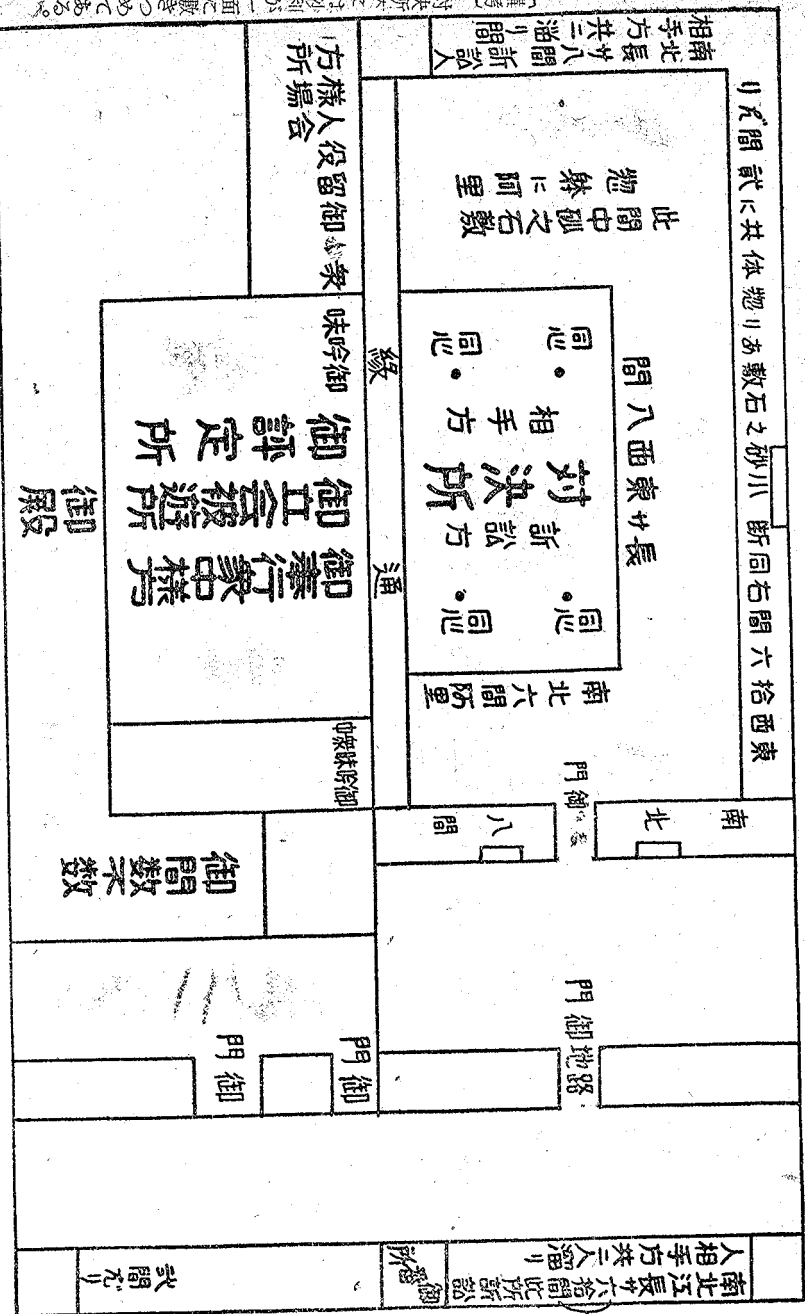
佐久間右兵衛様

原与市兵衛様

安条吉衛門様

被告側の御評定所記憶圖

〔筆者註〕六間ノ歌リと考へらる



樞

東 西 六 間 右 同 断 川 之 石 敷 あり 惣 体 共 に 歌 間 八 間

南北長サ八間 新訟人  
相手方共三溜り間

役留御象  
方様人會  
所場

味吟御

御奉行象中様  
御立立被遊所  
御評定所

御殿

中衆御

御間数不致

門御

門御

門御地路

八間

門御

史料 (丙)

宝曆八實記 十一月改 阿野郡北高屋村塩浜順道帳

紙數拾四枚上紙共

七軒釜屋道筋西

引金一中浜五畝廿一步

徳右衛門

最初

〆壹反壹畝六歩  
内七畝廿壹歩  
三畝拾五歩

市右衛門一平次郎  
十五郎一市次郎

最終

引金一中浜五畝拾五歩

文七

引金一中浜五畝拾式歩

同人

壹反拾式歩

×六郎右衛門

平次郎

引金一中浜五畝歩

權八

引金一中浜五畝歩

同人

一仁右衛門一×同  
一新 八一新太郎

引金一中浜武畝三歩

次左衛門

同人

引金一中浜武畝廿拾七歩

市左衛門

同人

引金一中浜四畝三歩

次左衛門

引金一中浜五畝廿七歩

市左衛門

畝合壹反歩  
内三ッ割

彦右衛門

利平

政

八一六右衛門

新嘉右衛門

利兵衛

政四郎一淺

松×六郎右衛門

×吉海  
×幸右衛門  
平次郎

註×印は扶治の跡あり  
平次郎に移れるか

×天保八己青海

×吉海

一中浜五畝歩

同人

一貞七

平次郎

一中浜五畝歩

次左衛門

次左衛門

平次郎

一中浜五畝歩

市左衛門

一貞七

幸次郎

一中浜五畝歩

文左衛門

文左衛門

幸次郎

一下浜九畝拾八歩

同人

同人

平次郎

一下浜九畝拾八歩

六左衛門

是迄九通不残砂入出ル

ハリ紙

九軒筋西南

一中浜菅反六歩

市次郎

六畝三歩

長四郎

五畝三歩

文七〇年より

善十郎

伝四郎

一中浜九畝拾五歩

言左衛門

天明元

寛政十年

文六

惣右衛門

善重郎

一中浜六畝三歩

金十郎

長四郎

三次郎

寛政十

惣兵衛

政八

一中浜三畝廿七歩

同人

惣右衛門

惣右衛門

文化

十五寅

善重郎

一中浜菅反廿四歩

三畝十八歩

金七

嘉右工門

久米次郎

吉次郎

金兵衛

七畝六歩

次左工門

当次郎

惣右衛門

惣右衛門

善十郎

一中浜卷反歩

庄三郎—金七—安永八嘉右衛門—辰十二久米次郎—午二吉次郎

一中浜五畝歩

利兵衛—友 八—寛政十年□次郎

—佐次衛門—金兵衛—未十二專八—文化十四丑藤兵衛

一中浜五畝歩

同 人—峯 七—久四郎

一中浜卷反廿四歩

同 人

一中浜四畝拾八歩

同 人—清二郎—寛政十年久藏—甚六—文化八未—十二月長右衛門—仁右衛門

一中浜四畝拾八歩

清次郎—久藏—甚六—未十二長左衛門—仁右衛門

一中浜九畝六歩

甚右衛門—同人—砂入□□—与作

一下浜六畝六歩

平 八—十右衛門—入作儀八—亥十二月逢藏

一下浜三畝歩

同 人 三畝六歩引

一下浜五畝歩

左次兵衛—与吉—作右衛門—久兵衛—八藏—入作甚左衛門—伊六一

—文政四長藏—青海村吉藏

一仕出四畝歩

同 人

一下浜五畝歩

甚 八—伊右衛門—富藏—入作富藏—十藏

一仕出四畝歩

嘉右衛門—同 人—十藏





一新浜巻反四畝拾五歩

一新浜巻反七畝九歩

一新浜巻反七畝十五歩内  
反七畝十五歩内  
一新浜巻反七畝六歩

一新浜五畝九歩

一新浜巻反七畝拾五歩

一新浜巻反七畝拾五歩

一新浜巻反七畝拾五歩

一新浜五畝廿四歩

一新浜五畝廿四歩

一新浜五畝廿七歩

一新浜五畝廿七歩

一新浜五畝廿七歩

一新浜五畝廿七歩

一新浜五畝廿七歩

一新浜五畝廿七歩

與 助 | 友藏 | 嘉右衛門 | 辰十二年 左五与門 | 八兵衛

左次兵衛 | 友藏 | 嘉右衛門 | 辰十二年 半四郎 | 太七郎 | 勝与門

善次郎 | 友藏 | 安永式年已春売券 文次郎 | 安永八亥年売券 嘉右衛門 | 書次三筆とも

辰十二年 岩右衛門

岩右衛門 | 同 人

同 人 | 同 人 | 半四郎 | 長次郎 | 文化元年二月 弁次郎

善次郎 | 藤与門 | 天保二年四月 吉 助

嘉右衛門 | 勝与門 | 安次郎 | 文正元年 長 八

左平次 | 右兵衛 | 嘉右衛門 | 口次郎

同 人 | 安永八亥年わけ 文右衛門 | 天明二年寅 左平次 | 同 人

同 人 | 左平次 | 同 人

伝 吉

同 人

善十郎 | 同 人

同 人

伝 吉 | 同 人

同 人

一 仕出壹畝三歩

清次郎—善十郎—安永二三八—寛政七卯十平次郎—辰十二銀左衛門  
己巳二月五日

政七—文化十五丑十二月 伝八

一 上浜壹畝拾八歩

同 人

一 中浜六畝廿一歩

善四郎—同 人

一 中浜四畝拾五歩

庄 助—同 人

一 仕出壹畝廿一歩

善四郎—同 人

一 仕出貳拾四歩

清次郎—善四郎—喜三七—天保二卯 勇助—天保四己与助—天保九戌与作  
右衛門 年勇助 与助 入

一 上浜四畝廿四歩

善十郎—同 人

一 上浜六畝拾八歩

善四郎—同 人

一 中浜貳畝貳七歩

庄 助—同 人

一 上浜壹反三畝廿四歩

與吉郎—嘉衛門—久次郎

一 上浜壹反三畝廿四歩

岩右衛門—安永五年 左次兵衛—伝兵衛—口衛門—天保十亥留介 卯 吉

一 上浜五畝拾五歩

善四郎—清次郎—喜八—口口門—文政 吉藏—平次郎—天保九戌 平林 蔵

一 上浜八畝拾八歩

治兵衛—嘉左衛門—文政四己入作 吉 蔵—同 人

一 上浜壹反三畝廿四歩

左次兵衛—林八—伝六—嘉兵衛—文政十亥 作五郎—天保三辰 作五郎 入 平次郎

一 上浜壹反三畝廿四歩

半右衛門—加与門—嘉右衛門—文化十三子 清吉—青海村入作 清吉 入 民蔵



一中浜三畝拾八歩

一中浜壹反式畝三歩

一中浜壹反式畝歩

一下浜壹反式畝拾式歩

一下浜壹畝廿一歩

一下浜四畝三歩

一下浜六畝九歩

一下浜八畝六歩

一新浜式畝歩

一下浜九畝九歩

一新浜九畝拾五歩

一新浜六畝式拾七歩

一新浜三畝三歩

一下浜四畝廿四歩

一下浜式畝拾式歩

近世瀬戸内海塩田の研究

儀左衛門—同 人—同 人—吟 藏—天保九戌吟藏入 沢右衛門

利兵衛—善 六—伝 六

作 助—源 七—銀 藏—政四郎—口 藏—右分 沢右衛門

右兵衛—吉 藏—午年 佐 六—善太夫—青海吉 藏

善 六—善 六—伝 六

小十郎—口 太郎—吉 藏—佐 六—善太夫—青海吉 藏

善 六—口 太郎—善 六—伝 六—内 壹畝歩 青海吉 藏

長 七—久三郎—忠次郎—九左衛門—庄 藏 佐 吉 藏

同 人

善 七—同 人

善 六—又 七—次左衛門

善 六 惣浜ニ仕出シ有

佐次兵衛—儀衛門 惣浜ニ仕出シ有

利右衛門—寅右衛門—卯十二月 平治郎—入作 藤藏—文政四己 年入作 武助—吉左衛門—

同 人

銀左衛門分譲 喜三七

一 仕出四畝拾五歩

同 人

一 中浜三畝三歩

金 七

一八三郎大藪次兵衛

文政四己年 銀左衛門 | 文政拾一 銀左衛門 入録 岩 蔵

一 上浜七畝拾武歩

梶右衛門

一 上浜九畝歩

伝三郎

一 上浜三畝廿四歩

淺右衛門

安永九子十二月二成

天保九戌又七 入 次左衛門

一 上浜七畝六歩

同 人

壹反壹畝分

又 七

右 八 右同人

一 上浜四畝拾八歩

利左衛門

八三郎 | 寛政己十二月十九日

大藪次兵衛 | 文政四己年 銀左衛門 文政十一 銀左 岩 蔵

一 中浜七畝三歩

金 七

一八三郎 | 寛政己十二月十九日

大藪次兵衛 | 文政四己年 銀左衛門 文政十一 銀左 岩 蔵

一 上浜六畝拾武歩

次兵衛

辰十二月

太七郎 | 銀左衛門 | 文政四己年 茂八郎 | 青海村 | 吉 蔵

一 上浜三畝廿一歩

同 人

一 仕出武畝歩

次兵衛

同 人

一 上浜五畝廿四歩

同 人

辰十二月

彌兵衛 | 与惣兵衛 | 助与門 | 天保三辰年 栄 蔵 | 次郎

一 下浜三畝九歩

同 人

一 上浜三畝九歩

同 人

一 上浜七畝拾武歩

又左衛門

伝三郎 | 庄

七 | 茂四郎

一中浜壹畝廿一步

一仕出式畝步

一上浜壹反三畝廿四步

一下浜三畝九步

一下浜五畝步

一上浜八畝廿七步  
卷之廿七步内

一上浜式畝步  
右之内

一上浜七畝拾八步

一上浜三畝九步

一下浜七畝廿壹步

一下浜三畝六步

一新浜四畝三步

一新浜七畝拾五步  
七畝拾五步内

一下浜三畝步  
七畝拾五步内

利左衛門

酉十月左 六 卯十二月 平次郎ニ成 茂四郎 文化十四庄七 丑十二月庄七

文政四巳年 鶴藏 天保九戌善十郎 入 林五郎

同 人

同 人

同 人

才 八 幾衛門 好右衛門 × 留 藏  
甚左衛門

幾右衛門 同 人

才 八 同 人

利 八 郎 久藏 寛政巳 十二月 大藏新七 三六 三平 文政四 伊六 文政十三 吉  
寛政九巳 十二月 新七 三六 三平 巳年 文政四 伊六 文政十三 吉

同 人 同 人

文 助 貞七 寛政九巳 十二月 新七 三六 三平 巳年 文政四 伊六 文政十三 吉  
寛政九巳 十二月 新七 三六 三平 巳年 文政四 伊六 文政十三 吉

幾右衛門 入作 吉 助 青海村入作吉助分入 伊 助

同 人

六郎左衛門 友 藏 惣浜ニ仕出有 同人

同 人 嘉 助 天保九戌年嘉助 与次右衛門ニ入

畝ニ貳反此拾四步  
一 壹反拾式步 林五郎  
一 壹反拾式步 伊 作

一下浜四畝拾五步

丈 助一友 蔵一同 人

一中浜五畝拾五步

伝次郎一同 人一十 蔵一未十二月、三 平一専 蔵一文 蔵一久太夫

一仕出三畝九步

同 人一文次郎

一上浜九畝拾式步

傳四郎一内四畝拾八步 喜三与門ニ成一好右衛門一

一上浜壹反式畝廿一步

同 人一内七畝九步 卯十二月五日 喜三与門成一七畝九步 久太郎 七一文政四巳年吉助

七畝九步 利兵衛一滝 蔵一天保四巳年 順吉  
五畝拾式步 吉助一伝十郎 滝蔵入

一上浜壹反壹畝廿一步

伝十郎一友蔵一内七畝步 新七一文政四巳年 吉助

内七畝步 吉助一内七畝步 伝十郎一天保四巳年滝蔵入 順吉  
四畝廿一步 利兵衛一四畝廿一步 滝 蔵

一上浜壹反三畝步

口 助一同 人一内七畝拾二步 兵次郎一嘉助入 与次衛門

一上浜八畝廿四步

真右衛門一同 人一文次郎

一上浜七畝廿七步

同 人一十 蔵一未十二月、三 平一専 蔵一文 蔵一久太夫

一新浜八畝六步

真右衛門一兵次郎一兵次郎

一上浜七畝廿一步

伝三郎

一新浜式畝步

同人

一上浜七畝六歩

梶右衛門一六畝歩  
卷畝六歩

同 庄 人  
七一茂四郎

一上浜五畝廿四歩

又左衛門一四十二月

茂四郎一留七一庄 七一同人  
辰十二月

一中浜四畝廿七歩

同 人同人

畝合拾町八反四畝廿七歩

わけ

一七町七反卷畝廿七歩

古 浜

一三町卷反三畝歩

新 浜

右之通相違無御座候以上

塩 政 所

佐 次 兵 衛 團

宝曆八寅年

十一月改

〔附記〕

前稿に、伝兵衛は『それは恐らく洲脇姓をもつ「富田屋」のことであろう』と推定したが、拙稿発表後山本小一郎・多和和彦

両氏の熱心な協力により、彼はまさしく享保・宝暦年間の備前の豪商であることが確定され、現に『天祥寺境内に立派な墓

石とその碑文を見出した』との報せを得た。備前地方史家のかゝる協力に私は心からなる謝意を表したい。一九五三年二月一

近世瀬戸内海塩田の研究



附録 幕末に於ける塩相場表

(瀬戸内海地方に一匁に付き)

天保十三年秋	五匁三分	嘉永五年春	五匁五分	万延元年春	五匁八分
十四年春	四匁五分	六年秋	四匁八分	文久元年秋	七匁六分
弘化元年秋	四匁五分	安政元年春	四匁五分八厘	文久元年春	九匁五分
二年春	四匁五分	二年秋	三匁五分二厘	文久二年秋	六匁二分
三年秋	四匁五分	三年春	三匁七分	三年春	六匁
四年春	三匁八分	二年秋	五匁	三年秋	六匁八分
嘉永元年春	四匁三分	三年春	四匁三分	元治元年春	八匁五分
二年秋	五匁	四年秋	四匁	二年秋	十四匁
三年春	五匁五分	五年春	四匁三分	慶応元年春	拾匁五分
四年秋	五匁四分	六年秋	四匁	二年秋	拾三匁
二年春	七匁四分三厘	七年春	四匁一分三厘	二年春	拾四匁五分
三年秋	六匁三分	八年秋	四匁九分	三年秋	拾四匁八分
四年春	五匁五分	九年春	五匁二分	四年春	拾五匁三分
五年秋	五匁四分	十年秋	五匁六分	五年秋	貳拾九匁
六年春	四匁八分	十一年春	四匁七分	六年春	拾八匁
七年秋	六匁	十二年秋	四匁七分四厘	七年秋	
八年春	六匁八分	十三年春		八年春	
九年秋		十四年秋		九年秋	
十年春		十五年春		十年春	
十一年秋		十六年秋		十一年秋	
十二年春		十七年春		十二年春	
十三年秋		十八年秋		十三年秋	
十四年春		十九年春		十四年春	
十五年秋		二十年秋		十五年秋	
十六年春		二十一年春		十六年春	
十七年秋		二十二年秋		十七年秋	
十八年春		二十三年春		十八年春	
十九年秋		二十四年秋		十九年秋	
二十年春		二十五年春		二十年春	
二十一年秋		二十六年秋		二十一年秋	
二十二年春		二十七年春		二十二年春	
二十三年秋		二十八年秋		二十三年秋	
二十四年春		二十九年春		二十四年春	
二十五年秋		三十年秋		二十五年秋	